

第65回「社会を明るくする運動」射水市作品コンテスト 優秀賞35名を表彰

射水更生保護

発行・編集
射水保護司会
会長 五十嵐 繁久
TEL 0766-86-0123
〒934-8555
射水市本町2丁目10番30号
射水市福祉保健部 社会福祉課内



▲ 夏野元志市長よりひとりひとりに表彰状を

平成二十七年十月四日(日)、第六十五回「社会を明るくする運動」射水作品コンテスト表彰式を射水市高周波文化ホールで開催しました。

射水市作品コンテストは、毎年「社会を明るくする運動」事業の一環として射水市推進委員会と射水保護司会の学校部会が中心となり、コンテストを通して「非行や犯罪のない社会の実現」を目指して実施しています。

今年も射水市内の小学校十五校、中学校六校から、作文(千二百三十三点)、ポスター(三百六十六点)、標語(四百七十七点)を合わせて、千九百九十六点のご応募をいただきました。厳正なる審査の結果優秀賞を次の通り決定し、表彰式を行いました。(次ページに名簿掲載)

作文の部 11名

ポスターの部 12名

標語の部 12名

はじめに、「社会を明るくする運動」射水市推進委員長夏野元志市長が挨拶、大利文雄富山保護観察所長からご祝辞をいただきました。

授賞式では、夏野元志市長より入賞者ひとりひとりに賞状が授与されました。続いて、次の四名の方々に富山県推進委員会への推薦作文を発表していただきました。

● 中太閤山小学校 六年 川 淵 遥さん

『親切のシレー』

● 大門小学校 六年 塚 元 葉さん

『花を植えよう』

● 新湊南部中学校 二年 片 岡 萌々音さん

『思いやりの大切さ』

● 射北中学校 三年 橋 本 笑 里さん

『本当の友だち』

発表を聴いて、家族や、友人、学校や地域の人々と関わることで、感じたり、考えたりしたことから、これからやってみようように発展し日常の中で成長していく姿を頼もしく感じました。

表彰式はケーブルテレビでも配信され、本コンテストの優秀作品は毎年、中学生生活体験発表大会の優秀作品とともに作品集として発行し、関係機関に配布しています。



『更生保護サポートセンター射水』
〒939-0234 射水市二口1081番地
射水市役所大門庁舎 車庫棟2階
電話：0766(52)7696
FAX：0766(52)7697
E-mail：imizuhogoshikai@gmail.com
ホームページ URL：hogosi.com
月曜日から金曜日
午前9時30分～午後3時30分まで
企画調整保護司が交代で常駐しています。

第六十四回 社会を明るくする運動
射水市作品コンテスト 優秀賞者氏名

作文の部

中大岡山小学校	6年	川	遥
大門小学校	6年	塚	葉
片口小学校	6年	中	遥
作道小学校	5年	山	菜
小杉小学校	5年	野	心
太閤山小学校	6年	高	奈
新湊南部中学校	2年	片	音
射北中学校	3年	橋	里
小杉中学校	3年	嶋	結
小杉南中学校	2年	夏	梨
新湊中学校	2年	縄	菜

ポスターの部

作道小学校	5年	長	映
小杉小学校	6年	中	紅
堀岡小学校	5年	原	沙
金山小学校	5年	水	上
東明小学校	5年	岡	恵
下村小学校	6年	山	口
東明小学校	5年	海	野
大門小学校	5年	土	合
塚原小学校	5年	荒	瀧
大島小学校	5年	棚	元
小杉小学校	6年	金	子
新湊南部中学校	3年	木	谷

標語の部

放生津小学校	6年	鳥	瞳
作道小学校	6年	宮	翼
堀岡小学校	4年	村	宏
東明小学校	4年	岩	井
塚原小学校	5年	明	石
小杉小学校	4年	西	田
歌の森小学校	4年	大	坪
中大岡山小学校	5年	仕	切
下村小学校	5年	澤	李
大門小学校	4年	石	井
大島小学校	4年	川	原
新湊中学校	2年	手	林



▲ 会場入り口に、優秀作品を展示

小学校で薬物乱用の
怖さ伝える

学校部会 谷川 義昭

今年で三年目になる薬物乱用『ダメ。ゼッタイ。』教室が九月より始まりました。射水市教育委員会のご理解をいただき、市内十四小学校、八六二名の六年生を対象に、新湊・小杉・大門のライオンズクラブと協同で開催しました。

二十七年十一月に京都市内の小学生が大麻を使用したとのショッキングなニュースや、薬物事犯検挙者はいまだに一万二千人前後を推移するなど、薬物乱用に関する事件が後を絶ちません。また、最近では覚せい



▲ しっかり学ぼうとする姿勢が伝わってきます

剤や危険ドラッグなども簡単に手に入るようになり、薬物の汚染は私たちの身近にせまってきています。

授業では、まず啓発DVDを上映し、薬物の怖さを知ってもらい、その後ライオンズクラブの薬物乱用防止認定講師が分かりやすく、教本やスクリーンを使用して、薬物乱用が心身に及ぼす深刻な影響について話されます。

特に強調されるのは、安易な気持ちで先輩や友達から「ちよつと試してみない」「一回だけなら平気さ」「眠気が取れて勉強ができるよ」と進められても「ダメ。ゼッタイ。」と断る勇気が大切であること。

そして、薬物乱用の恐ろしさは心も身体もメチャクチャになり、君たちのステキな脳が破壊されてしまい、一度破壊された脳は二度と元には戻れないこと。

更に薬物は持つていても使っても「ダメ。ゼッタイ。」「犯罪です」ということ。最後に「薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」をみんなで三回繰り返し返して唱え、薬物乱用防止教室は終わります。

地域の宝である、皆さんの素晴らしい人生や幸せを心から応援していることを訴えました。



更生保護特別講座 「みんなで考える高齢者の万引き防止」

講師 尾田清貴



平成二十七年十一月二十二日
新湊交流センターで、「みんな
で考える高齢者の万引き防止」
と題してお話いただきました。
先生は日本大学で教鞭をとる傍
ら、財団法人都市防犯研究所主
任研究員・日本BBS連盟理事
でもあります。

高齢者の万引きも、高
齢の特殊詐欺被害者も
根っこは同じ、孤独と不
安感を抱えていることだ
とお話されました。顔見
知りがいて、声を掛け合
い、自分が必要とされる
こと。困ったときには行
政も含めて地域の手が差

し伸べられること。それが高齢
者が加害者や被害者になること
を防ぎ、ひいては、みんなが安
心して暮らせる地域づくりに関
がること。具体例を引きながら、
とてもわかりやすく、また和や
かな雰囲気でお話いただきました。

講演後の質疑応答では、保護
司に現在期待されていること、
今後期待されること、ボラン
ティアとしての保護司にどこま
でできるか、たくさん課題や
アドバイスをいただき、今後の
活動に活かしていきたいと思っ
ます。



社会貢献活動担当保護司特別研修会に参加して

林 美貴子

社会貢献活動は保護観察対象者に地域
社会の役に立つ活動を行わせることによ
り、自己有用感、規範意識、社会性の成
長を促し、改善更生、再犯防止を図るも
のです。実際の活動としては保護監察官、
保護司や更生保護女性会員らが保護観察
対象者と一緒に受け入れ施設である福祉
施設の清掃活動や、公共の場所での美化
活動などを行います。社会の役に立っ
ていることを体験し、また、周りの人と協
力して活動することから、保護観察対象
者の社会での孤立を防ぎ、立ち直りを支
援しようとするものです。

社会貢献活動は平成二十三年度から、
保護観察処遇の一環として、試験的に実
施されていましたが、平成二十五年六月
に改正更生保護法が成立し、特別遵守事
項に定める事項として社会貢献活動を一
定期間行うことが認められ、平成二十七
年六月から本格実施されています。

その社会貢献活動を円滑に進めるた
めに標記研修会が平成二十七年十一月
十六日婦中ふれあい館において開催され
ました。県内の社会貢献活動担当保護司
四十一名の出席があり射水保護区からは
八名が出席しました。

大利富山保護観察所長と米澤富山県保



護司会連合会会長のごあいさつの後、堀
田統括保護観察官が富山県内における平
成二十六・二十七年実施状況と今後の
活動計画、活動場所と実際の進め方等
について話されました。その後、担当保護
司の役割等について、地区における現状
をふまえた活発な討議が行われました。

「一人の対象者に原則五回の活動を概
ね六ヵ月以内に実施するため、活動場所
や内容によっては担当保護司や協力者の
負担が大きくなる」「様々な経験も良い」
「対象者は最初戸惑っていても、活動後
はすっきりした、満足したという印象を
うけることから、この社会貢献活動を行
うことが大切である」などの発言があり
ました。お互いの立場から忌憚のない意
見を交わすことによって、より良い社会
貢献活動になっていくことを願ってい
ます。



射水市更生保護女性会だより

■県更生保護女性連盟
会員研修に参加して

眞岸潤子

平成二十七年十一月二十五日、富山市の高志会館で会員研修が開催されました。

今回の研修は、更生保護女性会における課題である新規会員の獲得や、機関・団体との効果的な連携について、地域の課題解決等で用いられているワークショップにより議論を行うことで、その手法を習得し、また会員相互の情報交換、問題意識の共有を図ることを目的に行われました。

まず、富山保護観察所保護観察官の



藤田一氏から、「ワークショップについて」の講義を受けました。ワークショップとは、互いに意見を出し合い、参加者全員の合意を導き出す会議の手法。進める上での心得として、

- (一) 全員が主体的に関わる
- (二) 参加者全員の意見を大切に
- (三) たくさんの意見を出し合って良い意見を導き出す
- (四) 意見を聴き合う場
- (五) 時間を守る

(六) 楽しい雰囲気の中で活発な意見交換を行う。
ということを示されました。

そして、ワークショップのルールと進め方を聞き、十人一組の十グループに分かれ、二つのテーマ「会員の確保と更生保護女性会の在り方」「他の関係機関・団体との連携」について話し合いました。

私のグループは「保護司会との連携の在り方」についてワークショップを行いました。

まずは、保護司会とどのような活動と一緒にいるか現状把握をしたところ、社明運動、研修会、ミニ集会、社会貢献活動、広報活動、意見交換会など、いろいろな活動を共にやっているという現状が見えてきました。

次に、一緒に活動を進める上で感じている課題・問題点について率直に意見を出し合いました。「保護司の下に位置づけられているように感じる」「補助金をもらっているから仕方がない」「意見交換を行いお互いの活動を理解する必要があるので」「もともと役割が違うし、更女が主体性をもって活動するので良いのではないか」など様々な意見が出されました。最後に、「それぞれの役割に誇りを持って主体的に活動しつつ、お互いの立場の重要性を理解して、必要に応じて連携し活動していくことが大切である」という合意を導き出しました。

今回、初めてワークショップ形式の会議に参加しましたが、二時間半、和気あいあいと活発に意見交換ができ、各地区で行っている更女の活動や保護司

との関わり方を知ることができて大変参考になりましたし、更女としての意識が高まったと思います。この経験を今後の活動に活かしていきたいと思いました。

受賞おめでとうございます

◆中部地方更生保護委員長感謝状

道古 正子
草野 憲恵

◆中部地方更生保護女性連盟会長表彰

松井 光子

◆富山保護観察所長感謝状

前田 美智子
川東 睦子
多賀 敏美
川口 泰子

活動報告・今後の予定

平成27年

- 9月7日 県更生保護女性連盟理事会
- 9月29日 市更生保護女性会役員会
- 11月6日 県更生保護大会
- 11月25日 県更生保護女性連盟会員研修会
- 12月8日 市更生保護女性会理事研修会
(富山県女性相談センター)

平成28年

- 2月26日 市更生保護女性会研修会

◆地区活動を紹介します 養得園の給食活動から

小杉 地区

「今の時期って、何が一番美味しいかねえ〜」「暑い時期だから夏バテしないようにスタミナのつくもので」「炒めてから煮るとコクがでるよ〜」

これは、養得園の給食活動の献立作りをしている場面です。入所者の方々の思い浮かべながら、美味しくしてしかも家庭的な雰囲気を感じてもらえるかみんな真剣です。

献立が決まれば、次は担当決め。私達の地区では、ご飯と汁物以外は各家庭の味で作ってきて持ち寄ります。更女四年目の私は、昨年まで

米研ぎと盛り付け専門でした。しかし今年はいよいよ調理デビュー。漬物とデザート係です。漬物は切り漬けで、季節の新鮮な野菜をいっぱい使っ

て。生姜やみょうがや、しその葉も入れて香り良くしよう。デザートはひんやり冷たいもので。高齢者も多いと聞くから、たんぱく質やカルシウムが取れるように牛乳寒天にでもしようか。でも牛乳嫌いの人は大丈夫かな。さっぱりとしたゼリーもミックスしたらいいかな……。一生懸命に考えて、心をこめて作り、ワクワクしながら当日を迎えました。

このような給食作りは、作らせて頂くだけでなく自分にとっても有意義な



活動だと感じています。

というの第一に、仲間と楽しい会話が持てることです。献立作りのはずがいつの間にかやら食べ物談義や我が家の自慢料理になり、また家族や旅行の話になったり。話が弾み互いに色々知り合えて人の輪が広がります。

第二に、養得園の施設長さんから話が聞けることです。普段はなかなか知ることのできない入所者の方々の様子や施設の現状をわかり易く話してください。再犯の増大や高齢化。犯罪を犯した人は、家庭に恵まれない人も多く、部屋を整理整頓する、ゴミの分別をするなど社会生活の基本的なルールまでも教えずにはならない。頑張ろうという気持ちがあってもコミュニティ

ケーションが苦手な集団生活になじめない人も多いで、対人関係の調整や専門家の援助を得ることも。再犯を防止し、社会の一員として立ち直ることができるよう、昼夜を問わず指導援助にあたって等々。

意外なことも多々あり、私にとって、自立更生しようとしている人の実際を知る貴重な機会となつています。温かい愛ある家庭、立ち直りを支える地域社会の理解と協力が不可欠であることを今さらながら痛感します。と同時に、私の『ほっとけない』心は何をしているのかと自問自答も。この活動は、自分自身を省みる機会でもあり『気づき、考え、行動できる更女』でありたいと頑張る気持ちが湧いてくるのです。

◆社会貢献活動に参加して

土居 アツ子

保護観察所から、社会貢献活動への要請がありました。実施場所は七美ことぶき苑でした。

辞書によれば、貢献とは「力を尽くして役に立つこと」とあります。社会貢献活動は、地域社会の役に立つ活動を行う体験を通じて、人の役に立てるとい感情や社会のルールを守る意識を育み、立ち直ることを目的としています。

保護観察官や保護司の方々に加り、オリエンテーションの後活動を開始しました。内容はお菓子の配膳、浴槽及び車いすの清掃でした。私は、お菓子配膳を体験しました。

お菓子は、デイサービス利用者さん四十名余りの方それぞれの体調(糖分・塩分等に合わせて気配りされています。間違いがないように介護士さんの指導もあり、無事成し遂げることができました。保護司の方々も、与えられた活動分担を一生懸命やってもらえる姿勢は、何事にも変え難い行動の表れだと感じました。

初めて出会った人も交わつての活動なので、少し不安もあり心配しましたが、少しの違和感もなく終ることができて、とても良い経験になりました。

社会貢献活動とは、保護観察中の人たちが地域社会に貢献する活動を行うことを通じて、立ち直ることを目的としています。社会の役に立つ体験を通じて、人の役に立てるとい感情や社会のルールを守る意識を育みます。



二月十五日(月)日産ホコ

更生ペンギンのみちるん

社会貢献活動とは
保護観察中の人たちが地域社会に貢献する活動を行うことを通じて、立ち直ることを目的としています。社会の役に立つ体験を通じて、人の役に立てるとい感情や社会のルールを守る意識を育みます。

活動における指導
保護観察官や保護司が活動に同行し、活動の始めに目標について話し合ったり、活動の終わりに振り返りをするなどの指導を行います。活動中は、車いすの扱いなど安全の確保に努めます。また、保護司カンファの方向に活動への協力を依頼することもあります。

活動の場での連携
保護観察官、保護司、更生支援員、ボランティア、入所者、地域住民など、様々な関係者が協力して活動を行います。

活動の効用
保護観察中の人たちは、社会の役に立つ体験や「お礼状」と呼ばれる感謝状を受け、活動の意義や「社会貢献」を学ぶことができます。今後の生活が、その活動を通じて大きく変わります。

活動に参加する人
活動に参加するのは、保護観察中の人(※)たちで、一定の期間に複数回参加します。本施設や他施設で活動に参加する場合は、必ず保護観察官や保護司の指導のもとで行います。

群馬県沼田利根保護司会来訪

平成二十七年十二月二日、群馬県沼田利根保護司会の皆様が「更生保護サポートセンター射水」の視察にみえました。まず駐在所、面接や会議に使っている和室を見学、その後、大門庁舎の会議室にて企画調整保護司と懇談会・質疑応答を行いました。以前沼田利根担当官であったご縁で、富山保護観察所の中澤企画調整課長にもご同席いただきました。

沼田利根保護司会は定数四十六名、本年十月一日にサポートセンターを開所されたそうです。

質問は、サポートセンターの利用状況、運営資金のやり繰り、行政からの助成金、企画調整保護司の人数、駐在日程の調整、企画調整保護司会議の回数や内容などから、学校との連携における射水の学校部会の活動、協力雇用主会、更生保護事業協会、更生保護女性会の活動など、多岐にわたりました。

沼田利根保護司会の活動も紹介いただき、互いに参考になる事も多く中身が濃い懇談会となりました。



▲ 左端：中澤企画調整課長



▲ 沼田利根更生女会員



▲ 沼田利根保護司会長

「更生保護サポートセンター射水」だより

「ボランティア雑感」

三宅 陸 夫

残された任期が少なくなる今日のごろ、まわりの人から「ボランティアを長くやってこられての感想は如何ですか」と時折尋ねられる。

振り返ってみると「初めの頃は」わくわくからずガムシャラにやっていた感がありますが、そのうち、人と逢うのが楽しくなり、これが生活の一部にもなっている。

たよつな気がします。

その頃は、ボランティアという言葉は余り使われず、むしろ社会奉仕という意味であったと記憶しています。明確にボランティアが登場してきたのは、阪神淡路大震災を境目にして、テレビニュースに出たのが始まりだったようです。新潟大地震、若狭湾のナホトカ号による重油流出事故と続き、そして記憶に新しい東日本大震災でした。

日本国民の意識が、普段の慣習に従った行動とは異なる事態が生じた時、そこから外れて独自の行動がいかにも孤立した存在であるか又、自分の力の及ぶ範囲に限られたものであるか痛

感させられる事になったのです。私達ボランティアも同様のことが言えると思います。

今の日本は、工業化社会から情報化社会へと移行していますが、私達ボランティアにも又、同様のことが言えると思います。人が何に価値を見出すかは、その人が自分で決めるものであります。



▶ 愛知県千種保護区保護司会より
ホゴちゃんが来訪!

最後にありますが、残された任期を精一杯楽しく、悔いのなきものにした

と思っています。

◆ 部会だより ◆

◆ 総務部会

◆ 総務部会
新年度になってから総務部会理事會を三回、会長・副会長・事務局で構成する三役會を九回開催し、保護司會の運営や諸問題を競技してきました。

特筆すべき事として、「サポートセンター射水」を核として、射水保護司會の活道がより充実し、全国保護司會連盟の先駆的・モデル的事業に対する助成を三年連続で受けたことや群馬県沼田利根保護司會や県内保護司會の視察が相次ぎ、わたしたちの活動が広く県内外に知られてきたことが挙げられます。

◆ 学校部会

◆ 学校部会
十月四日(日)、新湊中央文化會館で第六十五回「社会を明るくする運動」射水市作品コンテスト表彰式が行われました。市内小・中学校から応募された作文、ポスター、標語から優秀作品三十五点

が選ばれ、射水市推進委員長の夏野元志市長より表彰されました。
作品コンテストは、「社会を明るくする運動」の一環として、毎年実施しているものです。市内小・中学校の児童生徒の一人ひとりが作品応募を通して、非行や犯罪のない明るい社会づくりについて、考えるきっかけになることを願っています。

ご支援ご協力をいただいた皆様
に心よりお礼を申し上げます。

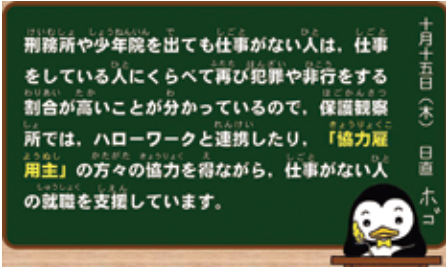
◆ 協力組織部会

◆ 協力組織部会
平成二十七年十一月一日富山刑務所職業訓練見学会に参加しました。フォークリフト運転科の実技実施状況や木工の実施状況など、テキパキ作業している姿に感動しました。フォークリフトの運転資格があれば、就職し易いとのこと。資格取得だけでなく、相手の心になって社会復帰することも学ぶそうです。

施設内では朝六時三十分起床、朝食、工場へ。七時五十分作業開始四時五十分までの八時間勤務で、規則正しい生活が送られているそうです。

また、刑務所出所者の就労支援報告もあり、就労支援に至った方二十七名。そのうち協力雇用主のもとで雇用十九名とか。逆に勤労に至っていない方十四名、内自己就職九名とのこと。

この世に生を受けて、今を生きているすべての人達は「働かざるもの食うべからず」です。何事も一生懸命と肝に銘じ、今一度のスタートを願っています。



◆ 研修部会

◆ 研修部会
十周年シンポジウム(テーマ.. 保護観察)に向けて

二十七年地域処遇會議(二回開催)に保護司として体験された貴重な御意見を多くいただき感謝しております。現在、編集中にはありますが、まさに一人一人の間ドラマの1コマを感じざるを得ません。どう編集するか難しい課題でもあります。

いずれにいたしましても、今後は実行委員会で精査されていきますが、これからの保護司・保護司會の在り方を議論する資料になればと思っております。

皆さんの保護観察が、立ち直りに繋がっていくためにも記念事業の準備はしっかりと進めたいと思っております。

◆ 地域活動部会

◆ 地域活動部会
更生保護サポートセンターは、保護司・保護司會が、地域の関係機関・団体と連携しながら、地域で更生保護活動を行うための拠点としての機能が期待されています。

六月の県地域活動部会協議會において「更生保護サポートセンター」が開所されている保護区から、企画調整保護司が少なく駐在の割り振りや保護観察所への請求書類に大変苦慮している報告がありました。射水保護区では、企画調整保護司が二十名を超えており、一週間に一回(月・金曜日)、半日

単位での駐在でスムーズに運営されています。

◆ 広報部会

◆ 広報部会
学校部会と協力し、射水市作品コンテストの作品集を発刊しました。射水保護司會ホームページ(アドレスは http://hogosi.com)で随時情報発信を行っています。

● 秋の褒章

藍綬褒章 大伴 せつ子

更生保護大会授彰者

○ 中部地方更生保護委員會委員長表彰

藍口 信子/境 文夫

塚本 秀樹/林 弥生

○ 中部地方保護司連盟会長表彰

池内 興舟/片林 政敏

栗原 彰

○ 富山保護観察所長表彰

本江 重吉/室田 清一

森田ひとみ

○ 富山保護観察所長感謝状

旭 邦彦

○ 富山県保護司會連合會會長表彰

境 敏政/島田 公志

山崎 次平

○ 中部地方更生保護委員會委員長感謝状

(更生保護協力者)

射水市中学校校長會

射水市小学校校長會

○ 射水市合併十周年記念特別表彰

射水保護司會

○ 射水市政功労者表彰

五十嵐繁久/谷口 繁

◆射水保護司会事務局日誌◆

平成27年

8月5日 企画調整保護司会議

6日 県就労支援推進協議会、

刑務所出所者等就労支援事業

協議会

25日 定例研修・自主研修会

保護司候補者検討協議会

県協力組織部協議会

9月3日 県研修部協議会

15日 薬物乱用防止教室（金山小）

27日 第2回地域処遇会議

10月4日 第65回「社会を明るくする運動」

射水市作品コンテスト表彰式

8日 薬物乱用防止教室指導員会議

16日 サポートセンター協議会

20日 10周年記念事業実行委員会

29日 薬物乱用防止教室（大島小）

県社会福祉大会

11月1日 射水市合併十周年記念式典

6日 県更生保護大会

10日 第3回理事会

16日 保護司特別研修

社会貢献について

17日 薬物乱用防止教室（作道小）

18日 射水市社会福祉大会

22日 射水保護司会更生保護特別講座

講師 尾田清貴氏

「みんなで考える高齢者の

万引き防止」

25日 薬物乱用防止指導員大会

27日 薬物乱用防止教室（太閤山小）

12月1日 定例研修会・自主研修会

2日 沼田利根保護司会来訪

15日 薬物乱用防止教室

（新湊小12月18日保護司活動

推進研究会（東京）

26日 企画調整保護司会議

平成28年

1月13日 社会貢献活動（ことぶき苑）

14日 薬物乱用防止教室（中太閤山小）

17日 中新川保護司会視察来訪

21日 薬物乱用防止教室（大門小）

24日 大伴せつ子さん藍綬褒章授章

祝賀会

26日 白山野々市保護司会視察来訪

2月5日 県広報部協議会

8日 薬物乱用防止教室（片口小）

9日 定例研修・自主研修会

新任・退任保護司歓送迎会

薬物乱用防止教室（塚原小）

12日 薬物乱用防止教室（歌の森小）

16日 薬物乱用防止教室（堀岡小）

更生保護相談・定期駐在

薬物乱用防止教室（下村）

17日 薬物乱用防止教室（小杉）

◆保護司の異動・退任◆

◆新任保護司

矢野 善治（27年12月21日付）

中島 正治（ // ）

◆退任保護司

中村 奈千代（27年9月1日付）

大伴 せつ子（27年12月20日付）

退任に寄せて



大伴 せつ子

私が保護司を拝命したのは平成三年。失敗をくり返しながら、早くも二十四年の月日が流れました。

保護司とは？と単純な疑問を抱いていましたが、「なせば成る」という思いで取り組みました。

最初に担当したのは交通事故の少年でした。来訪、往訪ともきちんとこなしました。少年は塗装工として真面目に働き、半年で解除となりました。

次に担当したのは十五歳の少女で、最初の頃は反抗期なのか、他人を信じる心に欠け攻撃的な態度でした。私は本人との距離をちぢめるべく、一緒に行動する機会をつくりました。「三つ叱って五つほめ、七つ諭して子は育つ」と言われる如く、互いの心のつながりを大切にこの思いで接しました。

次第にかたくなだった心が打ち解けていき、悩みを話してくれるようにまでなりました。

又、他の担当者で解除された喜びの手紙をくれた三十代の女性もあり、時には「誕生日おめでとう」と電話をくれた少年もいて、素直に嬉しく思いました。

一人ひとり環境の違う対象者との短期間での心の交流は難しいと感じながらも、一喜一憂し、退任する日を迎えることが出来ました。これもひとえに観察所の方々に、家族や周囲の皆様のおかげで頂いた賜物と感謝しています。

最後に、最近話題の映画「人生の約束」を観てきました。そこには人と人との繋がりが描かれており、自分が保護司として携ってきた二十四年間も、そこに繋がったものであったと感じました。

◆編集後記◆

射水保護司会が合併十年を迎え、今後とも地域の皆様に更生保護へのご理解とご協力を仰ぎ、保護司会活動を未来につなげるという思いで、更生保護シンポジウムを今年秋に予定し、準備を進めています。詳細が決まり次第ご案内申し上げますので、その節は是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。



▲ 10周年記念表彰状